

通信業界で飛躍誓う

チャレンジ精神

実験が嫌い。それが抵抗でそれがコンデンサーなのか、部品の区別が全くつかない。68年に早稲田大学理工学部を卒業。同年、計測器開発の岩崎通信機に入社したマイクロナクス社長

の田仲克彰はそんな青年だった。「取引先から測定器の修理を依頼され出かけて行ったが、何をどうしたらいいのかわからない。目撃していたら怒られた」と振り返って笑う。

ハードルを乗り越えるのが「大好き」。そんな本能とも言えるチャレンジ精神の持ち主は、そこで猛烈な努力をこなし、大学で身につけた理論を武器に入社1年目にしつと見事、新しい静電容量計の開発をやり遂げたのだ。

将来性を確信

オシロスコープ、高速フ

すい列は中央演算処理装置(CPU)のクロック周波数。CPUの処理能力をつかさどり、値が大きくなるほどコンピュータの処理速度が速くなる。単位はメガヘルツまたは千ガヘルツ。高いクロック周波数のCPUはパソコン、情報通信関連を中心に家庭用電化製品などにも幅広く利用さ

高いハードルに闘志

「初めての出来事や高い

り工交換(FPT)アナライザなどさまざまな測定器の研究・開発に取り組むなか、田仲は世の中で高周波の利用が進んでいることに目を付けた。わかりや

れ、現代生活に欠かせないものになっている。田仲は高周波に大きな将来性を感じ、興味をかきたてられた。「近い将来、必ず社会から必要とされる技術になる」。さらにデジタル化がもたらされるにつれて、入社当初、部品の区

ナログ的な技術で「技術的には30センチメートルより高度」。

別もつかなかった青年は30代半ばにさしかかり、中間管理職を勤めるようになった。3人の子供たちもまだ幼かった。しかし「面

白い」と思うことをやりた

「飛び込みの営業マンは1人も来ないですよ」と田仲は愉快そうに笑う。



のどかな丘の上に立つ本社社屋

脱サラ決心
期は熟した。結局、妻に相談せず、40歳を目前に控えて脱サラを決心する。2人の同僚とともに東京都八王子市の酒屋の2階に事務所を構えた。通信業界での飛躍を目指し、マイクロナクスがスタートしたので

創業翌年の86年、事業拡張のため移転。引っ越し先は同じ八王子市内の小高い丘の上だ。車で10分かかる現在の最寄り駅は、当時まだ開設されていなかった。「不便でしよう」とよく言われたが、この仕事に交通の便は関係ない。世界を相手にする将来を、見据えての選択だった。取引先はひっきりなしに訪ねてくるが「飛び込みの営業マンは1人も来ないですよ」と田仲は愉快そうに笑う。

勝つ

マイクロナクス②

たときにマイクロナクスはア

(敬称略)